

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：大隅指導区 氏名：中村 信一

1 発表テーマ

大隅地域における再造林の推進

2 テーマの趣旨・目的

木材需要の高まりにより、人工林の伐採量は年々増加しており、今後も更なる増加が見込まれる。

一方、人工林伐採跡地への再造林面積は増加傾向ではあるが、再造林率は4割から6割程度で推移してきており、目標値の7割には達していない。

森林資源を循環利用しつつ、その公益的機能を持続的に発揮させるために、再造林を推進していく必要がある。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 成果

- ・再造林面積 H29：313ha → R3 目標：392ha 【実績：457ha】
- ・再造林率 H29：62% → R3 目標：70% 【実績：68%】

② 課題

- ・後継者不足による森林所有者の経営意欲の減退
- ・斡旋業者による山買いや伐採事業者による再造林を計画しない伐採の増加
- ・社会的ニーズに応じた苗木供給体制の必要性
- ・再造林と保育作業を担う労働力の不足
- ・労働力不足による間伐実施の停滞

4 今後取り組むべき内容

(1) 森林所有者の意欲喚起と再造林の推進体制強化

- ・市町との連携・支援

(森林経営管理制度や伐採届出制度の運用, 伐採現場パトロール, 広報誌等)

- ・「事業体のぼり旗」によるPR活動の展開


(2) 優良苗木の安定供給体制づくり

- ・品種の明確化と優良苗木の生産拡大
- ・コンテナ苗生産の技術向上と体制整備

(3) 担い手の確保・育成（労働力対策）

- ・地元高校生への普及啓発と就業支援
- ・再造林及び下刈の省力化推進（一貫作業, 機械化, 下草繁茂抑制, 早生樹種）
- ・事業体間連携の促進支援
- ・HP, SNS, パンフレット, 広報誌等の各種媒体を活用した情報発信

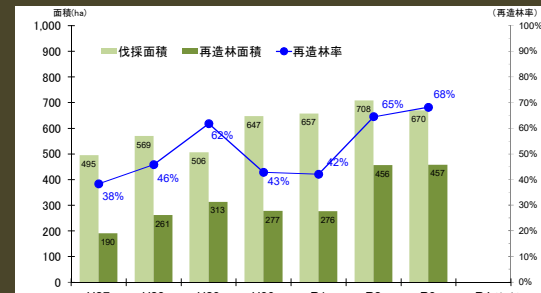
大隅地域の特徴



- 県本土の東部、大隅半島に位置し4市5町で構成
- 北に宮崎県と接する県境域
- 県内でも早くからスギを主体に人工林化が進められた県産材の主要な供給地
- 人工林率[57%]が県平均[43%]を大きく上回る

人工林の伐採と再生林の現状 (大隅)

- 県全体の再生林面積の約5〜6割を大隅が占める。
- 再生林率は、常に県平均を上回ってきたが、目標値7割には未達。



年度	伐採面積 (ha)	再生林面積 (ha)	再生林率 (%)
H27	495	190	38%
H28	569	261	46%
H29	506	313	62%
H30	647	277	43%
R1	657	276	42%
R2	705	458	65%
R3	670	457	68%
R4 (年度)	-	-	-

未来の森林づくり推進プラン (大隅地域)

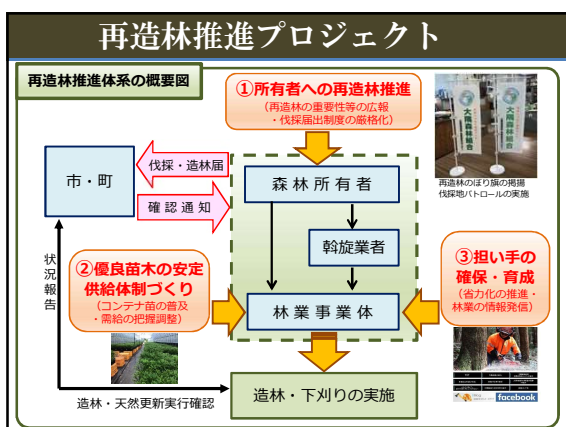
県森林・林業振興基本計画の基本理念実現や目標達成に向け、5年後の目指すべき目標を設定。(令和元年度～5年度)

(単位:材積m3、面積ha)

項目		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5
木材生産量	目標	267,500	275,700	286,000	298,200	310,400
	実績	417,116	358,447	379,845		
	達成率	156%	130%	133%		
想定主伐面積	参考指標	535	540	560	584	609
	実績	656	708	670		
	達成率	123%	131%	120%		
再生林面積 (再生林率:目標70%)	目標	375	378	392	409	428
	実績	276	456	457		
	達成率	74%	121%	117%		
間伐面積	目標	600	600	600	600	600
	実績	400	404	383		
	達成率	67%	67%	64%		

再生林推進を取り巻く課題

- 後継者不足による森林所有者の経営意欲の減退
- 斡旋業者による山買いや伐採事業者による再生林を計画しない伐採の増加
- 社会的ニーズに応じた苗木供給体制の必要性
- 再生林と保育作業を担う労働力の不足
- 労働力不足による間伐実施の停滞



大隅地域の森林・林業の情報発信

ホームページとSNSを連動させ情報発信中

大隅流域森林・林業活性化センター

森あ鹿林な兒かたあかのる動大く隅に

facebook

大隅流域森林・林業活性化センター

鹿屋市大隅地域の森林・林業の情報発信

oosumi-ringyou.com